

1. 評価報告概要表

評価確定日 平成20年12月9日

【評価実施概要】

事業所番号	2272100311		
法人名	有限会社 INB		
事業所名	グループホーム「いっしょに暮らそう」		
所在地 (電話番号)	富士宮市杉田1020-2	(電話) 0544-21-1780	
評価機関名	静岡県社会福祉協議会		
所在地	静岡市葵区駿府町1-70		
訪問調査日	平成20年7月22日		

【情報提供票より】(20年7月10日事業所記入)

開設年月日	平成 15年 6月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	15 人	常勤	8 人, 非常勤 7 人, 常勤換算 10 人

(2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	木造・準耐火造り	
	2 階建ての	1 階 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	65,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,500 円		

(4) 利用者の概要(7月 10日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名	
要介護1	1 名	要介護2	3 名			
要介護3	1 名	要介護4	4 名			
要介護5	0 名	要支援2	0 名			
年齢	平均	84.3 歳	最低	71 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	南富士病院・阿南胃腸科外科・桑原歯科医院・東静岡訪問看護ステーション
---------	------------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは自然に囲まれた中にあり、職員一丸となって「生きることをあきらめず、今の一瞬こそを大切に、活き活きと人生を全うする」支援に取り組んでいる。利用者と家族の絆を大切に考え、家族からの信頼も厚い。運営推進会議も定着し、市や地域との良い関係ができ上がっている。利用者は月一回「寄り合い会」を開き、日常の生活での意見や要望を出し、ホーム側はそれに誠実に応え、一人ひとりを大切にするケアの実践が行われている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価では改善課題は無かった。常により良いサービス提供を心がけている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価はスタッフ一同真摯に取り組んでいる。日常の業務やケアを再点検し、より一層のサービスの質の向上に取り組む足がかりと考えている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は、2ヶ月に1度各方面からの参加を得て開催している。市や地域からの情報や意見を取り入れ、運営に活かすよう取り組んでいる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	日頃から家族との関わりが多く、顔なじみとなっているので、意見・要望も出しやすい雰囲気がある。また家族アンケートや運営推進会議での意見や要望も大切に受け止め、それらを運営に反映するよう役立てている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域との関係は、開設当初より良好で交流も深い。利用者が一人で外へ出てしまうと、近隣の人が教えてくれたり、野菜等の差し入れなど地域の協力が得られている。散歩での挨拶や会話など日常の交流を大切にしている。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「認め合い、支え合い、高め合い」という理念のもと、入居者が閉じこもりがちにならず、孤立しないよう、それまでの人間関係をできる限り継続できるよう家族や親族、友人、知人との交流を続けられるよう支援している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者の思いや情熱は、理念を通して職員にも共有され、共に利用者の心に寄り添った介護の実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域との関係は良好で、お祭りや清掃活動、敬老会など多くの地域行事に参加し、またホーム主催の地域交流会やお祭りなども毎年開催している。日常的にも地域ボランティアや近隣の高齢者の訪問も多く、認知症の介護相談や、認知症サポーター養成講座なども開催している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価は職員全員で取り組み、日常の業務やケアについて再点検し、より良いサービス提供のため役立てていこうとしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2ヶ月に1度平日の午後に開催し、地域住民の代表や市職員、利用者や家族代表などが参加している。利用者の近況報告、ホームの活動や運営状況などを議題にして意見交換を行い、記録している。また会議を通して、地域に対しての働きかけや、交流等も行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市との連携を積極的に行っている。市からの実習生の受け入れ、認知症サポーター養成講座などの委託業務、更には新施設開設の相談にのり、市とのパイプ役も担っている。市主催の福祉作品展にも毎年参加、出品している。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族との関係は良好で、話し易い雰囲気の中で家族の訪問も多い。面会時に利用者の様子などを丁寧に報告している。毎月「みょうが便り」を発行し、日々の利用者の様子や職員の異動なども知らせている。</p>		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>入居時に家族アンケートを取り、要望を聞き出している。入居後は、ケアプランの説明時や家族の訪問の際に、何でも話してもらえるような関係作りを心がけ、また運営推進会議にも家族代表に参加してもらい意見を聞き出している。</p>		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>管理者は、職員の異動等が利用者にも与えるダメージについて十分理解しており、それを最小限に抑えるため、職員の定年制を設けず、また労働条件の改善、福利厚生、健康管理などの体制作りに努力している。</p>		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員を育てる取り組みとして、ヘルパー講座の受講をスタートさせ、介護福祉士やケアマネ等段階に応じて計画的に育成している。直接業務に関係のない事柄の資格でも、それがサービス向上の役に立つという考えから、自己能力開発手当を支給している。</p>		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム連絡会を開催し、隣市と合同での情報交換会や研修を実施している。同業者との交流として、運動会や、スタッフの新年交流会も行っている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に利用者と家族が事前見学を行い、納得した上で利用を開始している。それでも入居当初は、利用者も家族も不安になるため、家族に宿泊してもらったり訪問を多くしてもらうなど、相談しながら馴染んでもらうよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の生活歴やこれまでの人生について知ることが、その人の能力向上や喜びにつながると考え、回想法や自分史作り、また日々のつぶやきなども加えた人生カルタの制作にも取り組んでいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に希望を聞くが、ホームに慣れ、職員との信頼関係ができてから、本当の願いが見えてくると考え、通院介助時や「1日ケアの日」また家族の訪問時や家族アンケートなどから把握に努めている。利用者の“つぶやき”も大切にし、ノートにまとめている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	常に利用者の立場に立って、本人の希望を第一に家族や担当医、担当者、ケアリーダーなどが意見を出し合いケアプラン作成者と共に、作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は、3ヶ月ごとにケア会議で見直しを行っている。1ヶ月ごとに状態をチェックをしたり、プランに加えたことを記入しておき、3ヶ月ごとの見直しに役立てている。変化が生じたときは、利用者・家族・医師等の意見を聞き対応のプランを作成し、スタッフ一同で取り組むことにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院介助や買い物支援、退院後のリハビリ、墓参り等を行なっている。終末期ケアにおいては、家族・友人の宿泊による見守りの支援を行なっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は、本人・家族が決め、受診は家族が付き添っているが、都合の悪い時は職員が介助の支援を行っている。毎週の看護師訪問により、医療機関とのパイプ役ができ、適切な治療が受けられるようになっていく。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に向けた方針を整備している。利用者や家族には、入居時に確認しているが、全員がターミナルを希望している。近くの往診可能な協力医や訪問看護師の協力を受けることができ、家族等には宿泊による看取りの支援を行なっている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は一人ひとりのプライバシーやプライドに配慮した言葉かけや、対応をしている。また個人情報の取り扱いについても徹底している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	可能な限り、本人の意思を尊重することを基本としている。職員は本人の希望を引き出せるように寄り添い、その人らしい暮らしが続けられるよう心がけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を楽しめるよう、嫌いな物があると別の物を提供している。職員、デイサービスの利用者と一緒に会話しながら、楽しそうに食事をしている。食事の準備・配膳・片付けは、できる人が自然に行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は本人の希望に合わせて、時間、回数を問わず支援している。ゆったりと入浴を楽しむ中で、利用者が洩らす思いや本音が聞かれる機会を大切にしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の準備・片付け・配膳、洗濯物を干す・たたむ、鶏の餌やりや掃除等自然に役割が出来上がっている。入浴後ビールを飲んだり居酒屋へ出かけたり、また現金はほとんどの人が自己管理しており、年末の富くじは皆の楽しみとなっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買い物、受診介助等希望に沿った外出支援を行なっている。花の季節には皆で出かけたり、家族同伴で温泉旅行に出かけたりもしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることの弊害を十分理解している。夜間、職員が一人体制となる夜8時から翌朝7時まで施錠しているが、それ以外の時間は全て開放している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練実施計画書に基づき、昼間だけでなく夜間を想定した訓練も利用者と一緒に行っている。近隣住民も加わり協力を得ている。災害時の非常用倉庫を設置し、非常用物品を整備している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者と一緒に献立を立てている。食事や水分の摂取量はチェック表に記入し、スタッフが確認している。冷蔵庫の牛乳・ジュースは自由に飲めるようになっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広い共有空間には、手作りの机・椅子・ベンチが配置されている。利用者の要望で脱衣所から浴室にかけて手すりを付けたり、脱衣所をカーテンで仕切ったり、食堂のテーブルも高さの調節をするなど工夫されている。玄関や壁には利用者の絵が額に納め飾られ、やすらぎのある空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内の家具類は、使い慣れた物が持ち込まれ、思い出の写真と共に仏壇が置かれたり、ホームへ来てからの誕生日カードを飾ったりと、それぞれが心地良い個性のある居室となっている。		